



◆当面する重点作業

- 仕上げ摘果の作業をすすめる（6月下旬まで）
ふじの変形果は7月よりわかりやすくなるので、引き続き見直し摘果を1～2回実施しできるだけ高品質・適玉生産に努める。
- 徒長枝の発生が多くなるので、徒長枝整理を行う。（30cmに1本残す）
日焼け防止や側枝育成用・養分吸い上げ用は残し、薬剤がかかりやすくする。
- うどんこ病の被害枝は2～3芽多く切り取り、除去を行う。
- 腐らん病の枝は、見つけ次第、切除・治療・焼却を適切に行う。多発傾向。
- メンチュウの発生が見られ場合は、背中の徒長枝や根元のヒコバエを整理し、風通しを良くする。
- スモモヒメシンクイ対策として、りんご園等にある自家用に近いプルーン・すももの薬剤防除・耕種的防除の徹底を図り、発生量の削減を図る。
- 梅雨になると、炭疽病・輪紋病の果実感染や褐斑病感染の時期を迎え重要な防除時期となる。降雨が続く場合は散布間隔が空かないように実施する。
- 支柱立てを実施し、主枝先端まで養水分を流れやすくさせ、高品質生産を図る。
- まとまった降雨で、水が溜りやすい園では根腐れしやすくなるので、排水対策を行う。

◆腐らん病削り取とり動画について

長野農業農村センターにおいて、近年増加している「腐らん病」の削り取り動画が、YouTubeで公開されています。ぜひ参考にし、「腐らん病」を一掃しましょう！

スマートフォン・タブレットで下記QRコードを読み込んでも視聴できます



◆第7回薬剤散布について

- 散布時期：6月11日(火)～16日(日) 散布日 月 日
- 調合量：水1000l当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
Ⓜダイアジノン水和剤34	100g	リンゴワタムシ・シンカイムシ類・ハマキムシ類・カイガラムシ類	30日前
ペンコゼブ水和剤	200g	輪紋病・炭そ病・すす斑病・すす点病・黒星病・斑点落葉病	30日前

- 散布量：10a当り⇒500l以上
- 散布上の留意事項
 - 炭疽病・輪紋病の果実感染の時期を迎え、重要な防除時期であるので、丁寧な散布と降雨が多い場合は、散布間隔を狭めて実施する。
 - 降雨が多い場合は、展着剤に代えて、固着性展着剤アビオンE1,500倍(水100lに66ml)を使用してもよい。
 - 褐斑病発生が心配される場合は、ユニックス顆粒水和剤47の2,000倍(水100lに50g)を加用散布してもよい。
 - 7月中旬頃より収穫する品種（祝・人着つがる）は散布時期が遅れないようにする。

◆カルシウム欠乏対策について

ビターピット・ジョナサンスポット、コルクスポット等カルシウム欠乏対策として、必要に応じて、下記内容により、葉面散布肥料を散布する。

1. 対策時期：継続して月に1回程度
2. 使用資材：

資材名	倍率	1000ℓ当り使用量
ストピットⅡ	500倍	200g
スイカル	1,000倍	100g
カルビタ	1,000倍	100g
カルタス	500～1,000倍	200～100g

3. 注意事項：基本、カルシウム肥料とリン酸肥料は結合してしまうため混用しない。
ストピットⅡは、白くなるので収穫前の使用は控える。

◆苦土欠乏対策について

近年、苦土欠乏による黄変落葉が7月頃に発生することが多くなってきた。軽減対策として、下記を参考に対策を実施する。

〔葉面散布の場合〕

1. 散布肥料：グリーントップ 500倍（1000ℓ当り 200g）
又はリーフマグ 1,000倍（1000ℓ当り 100g）
2. 使用時期：5～6月に2～3回
3. 留意事項：単用散布を推奨するが、定期薬剤散布に混用してもよい。

◆果実の日焼けについて

果実の着果角度により日焼け程度は変化するので、仕上げ摘果時に注意する。果実が斜めに着果していると日焼けしやすい。まっすぐに垂れている果実は日焼け温度になりにくいですが、15度傾くと少し日焼けが発生しやすくなり、30度傾くと10倍以上日焼けしやすくなる。

南～西側で枝の上に果実が載っている場合は大抵日焼けになる。

◆受粉種のメイポールの摘果について

早期に摘果・せん定を行って隔年結果を防止する。

◆園地の除草・ハダニ対策について

ナミハダニの発生予防、作業効率を上げるために園地の除草(刈取り)を励行する。

1. 刈取り敷草化を基本に行うが、ごく浅い中耕をしてもよい。
2. 除草剤はバスタ液剤又はザクサ液剤を使用する。
 - ①草丈30cm以下なら10a当り、水100～150ℓに液剤500ml処理する。
 - ②草丈があまり長いと効果が落ちる。
 - ③多年生(宿根性)雑草には100～200倍液で散布する。
 - ④ワイ性樹などでは葉に飛散しないよう注意する。

※なお、殺ダニ剤の樹上散布3～5日前に草を刈り取るか、除草剤を散布すると防除効果が高い。

樹上散布後に除草剤の散布や、草刈りを行うと事後の発生が多い。

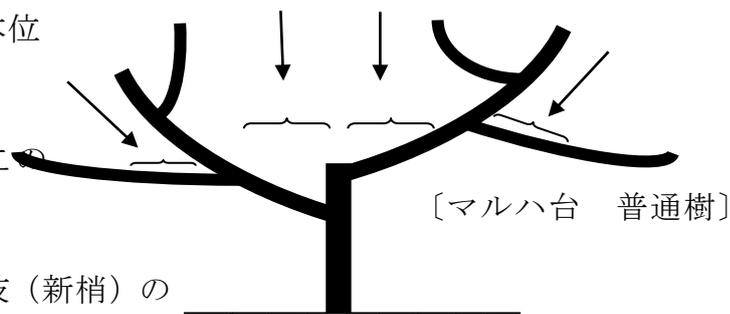
◆新梢管理について

1. 主枝、亜主枝や側枝基部の徒長枝（新梢）は全部欠き取るのではなく、30cmに1本位で千鳥に残す。
⇒ 計画的に切り（欠き）取る。

2. 着果不足で樹勢の強い樹は、徒長枝をこの時期切らずに無駄な養分を発散させる。お盆の頃に切り取る。

3. 6月中旬にダニの防除と合わせて徒長枝（新梢）の処分をする。⇒ 30cmに1本位ずつ千鳥で適宜に残す。

4. 図の矢印部分（主枝・亜主枝の基部）の新梢は強くなりやすいので欠き取る。



◆干ばつ・多雨対策について

降雨が少なく、晴天が7日以上続き乾燥状態になっている場合は、10a当り、20～30mm程度の定期的なかん水を積極的に行い、玉肥大を促す。幼木に対しては特にかん水をこまめに行う。敷きワラを行い、水分ストレスを減らす。

少雨で土壌が乾燥するとカルシウム欠乏が発生しやすいので、必要に応じて葉面散布を行う。

降水量が多い場合は「根痛み」を防ぐために、排水対策をする。

特に新しい化栽培では、水が24時間以上溜まると水ストレスによる黄変落葉が発生する。

◆有袋ふじ袋かけについて

下記の日程を目安に準備を進める。果実への病虫害発生防止の為、薬剤散布をしてから袋かけを行なう。

品種	被袋時期	摘要
ふじ	6月下旬～7月10日頃まで	一挙除袋用袋（有袋期間は85日位）

※ふじの一挙除袋用袋は、被袋が早いと地色が抜けすぎてかえって着色が遅れる。

※ふじ一挙除袋用袋は、作業が間に合っても早くかけ過ぎない

※ふじの一挙除袋用以外の袋は、被袋を上記より時期より10日早める。

《栽培に関する営農技術員への問合せ》

徳武（篠ノ井西部）：080-1202-0260／外谷（篠ノ井東部）：080-8048-6602

※篠ノ井西部は、当面、寺澤・松坂・佐藤・外谷も対応致します。

佐藤（信更）：090-7179-9866／伊藤（松代）：080-2239-6816

松橋（川中島）：090-4816-6297／根津（更北）080-1203-8576

松澤（若穂）080-1191-5166／寺澤（全域・情報担当・編集）：080-1188-5229

吉澤（全域・情報監修）：090-2543-0365

栽培に関しての電話対応は、担当地区関係なく対応できます。園地指導や地区組織関係のお問い合わせは、地区担当までお願い致します。

○果樹のアドバイザー（流通センター長兼務）松坂（篠ノ井西部）080-1188-4131

《栽培・販売に関する問合せ》各流通センター・共選所／営農販売部（本所）：292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部農業資材課：299-3311